

久野城(座王城, 鷲之巢城) (市史跡) (袋井市鷲巢字上末元) (公園)

明応年間（1492～1501）に今川氏が遠江（静岡県西部地方）へ攻め込む拠点として築城されたとして伝えられています。城址は舌状に張り出した丘陵の先端を利用した戦国時代の平山城の様子をとどめています。袋井市観光協会による

座王城、鷲之巢城とも呼ばれ、駿河今川氏の明応年間（1492～1501）に行われた遠江侵攻に際して家臣久野宗隆により築城されたと伝えられています。歴代城主は久野宗隆-元宗-宗能-松下之綱-重綱-久野宗能-宗成-北条氏重と続き 正保元年（1644）には廃城となりました。城址は、舌状に張り出した丘陵の先端を利用して築かれ、堀跡、曲輪、空堀、土塁などが残り、戦国時代の平山城のようすをよく今に伝えています。じゃらん旅行ガイドによる

久野城は久野宗能の居城として知られています。久野氏はもともと今川氏の家臣でしたが、宗能の兄・元宗が「桶狭間の戦い」で討死すると、家督を継いだ宗能は徳川家康に従い、各地で戦功を立てました。1590年（天正18年）に家康が関東に転封すると、宗能は下総佐倉へと移り、松下之綱が城主となりましたが、1603年（慶長8年）にふたたび宗能が城主となり、宗能の孫の宗成が徳川頼宣の家老として紀州入りに従い田丸城に移ると、北条氏重が城主となりました。1640年（寛永17年）に氏重が関宿へ転封になると、横須賀藩預かりとなり、1644年（正保元年）に廃城となりました。現在城址は公園として整備されており、土塁や堅堀などの遺構が残っています。「攻城団」による

久野藩史

戦国時代、この久野には豊臣秀吉がまだ名も知られていない百姓のとき、立身出世を求めて一時期、主君として仕えていた松下之綱が治めていた土地である。之綱は今川氏、次いで徳川氏に仕えていたが、天正11年（1583年）から秀吉の家臣として仕え、久野に1万6000石の所領を与えられた。

慶長3年（1598年）、之綱が死去し、後を子の松下重綱が継いだ。重綱は関ヶ原の戦いにおいては東軍に与して大垣城の牽制に務め、所領を安堵された。ところが、久野城の石畳を幕府に許可なく修理したことを咎められて、常陸国に懲罰的な移封を命じられた。これにより久野藩は、一時的に廃藩となる。

その後、久野の元領主であった久野宗能が戻ってきたこともあったが、子の久野宗朝の問題などもあって、旗本に転落し、後に御三家紀州藩家臣となっている。

代わって下野国富田藩から、北条氏重が1万石で入り、再び立藩する。氏重は徳川氏に仕えて駿河田中城番や二条城西惣門番などを務めた功績から、寛永17年（1640年）9月28日、1万石をさらに加増された上で下総国関宿藩に加増移封され、久野藩は完全に廃藩となった。

Wikipediaによる

